

上杉京保并佐竹右京大夫義宣玉替之年

一家康公園原と石田治部少輔一族討亡せし故諸家の
大小名は多に康公を慕ひあかりなり此に上杉京保石田組在
し河内守河内守康公江山城守一已に石田市に合せし多故に
京保に於てわけておぬ知不申方言上有次家康公少将し
家老の者り企る事を主人として不智のや、不屈に思召し金
津百万石河内守米沢へ引退くべき由を信出を次一家中の
侍共連判として米沢へ大勢の者引越定て飢死仕度く此に會
津の城を枕としてお果すへき由を究し又家康公少将不屈に思
召既し合戦よ及び所を諸大名中取扱く高烟三万石石田派

(米沢十五万石白川十五万石合て三十五万石)引越りて根拠一家
中の若衆は板板に金津を引拂へ歩沢城へ引取しあり

其後数年より上杉家の所政悪く多分の加役取立を此れハ
百姓困窮なるに云烟三万石の百姓は并々理直とて若江康
公より出訴し上杉方不屈におぬり云烟三万石取上げ
以て料と取り難く通加役中免おぬり理直忠江戸より下し
漆山後所へ申訴し未より云烟も城敗にぬり云是元禄元年
辰、土月三日より

亦云上杉家世継ぎ之儀で吉良上野介殿子息を養子と成り又將軍
家の中不審を蒙り白川領十五万石取上げにあたり